



開館時間 平日・土:9:30～18:00
日・祝日:9:30～17:00

休館日 毎週木曜、毎月第4金曜日、
年末年始

問い合わせ 宇土市立図書館 ☎(22)4512



幼児向け

ちようちよむすびのムスピーナさん

あさの ますみ / 文
高島 那生 / 絵
BL出版



ムスピーナさんは、ながーい耳のうさぎのおばあさん。アライグマのお母さんが、娘にちようちよむすびのやり方を教えてほしいと頼みにきました。ムスピーナさんはご自慢のながーい耳を使って、ちようちよむすびを教えますが…。

中高生向け

そして砂漠は消える

マリー・パヴレンコ / 作
河野 万里子 / 訳
静山社



ほとんどの生き物が砂漠に飲みこまれた世界で、残った木々を“狩り”、それを売って暮らす遊牧の民。木を“狩る”ハンターは男の仕事という掟をやぶって、少女サマアは一人旅立つ。孤独な闘いの果てに出会う、命と希望の物語。

小学生低学年向け

ふみきりペンギン

おくはら ゆめ / 作・絵
あかね書房



ゆうとはペンギンの話を、るりは白いヘビの噂を、ななこは鏡のライオンを、そうすけはフクロウの占いを、聞いたり、見たり、感じたり…。「ふつうとは?」を決めつけず「自分らしさ」を肯定する、ある町の小学3年生の物語。

一般向け

記憶の対位法

高田 大介 / 著
東京創元社



戦後、対独協力者として断罪された祖父が遺した、大量の古書と20あまりの黒檀の小箱。祖国、信仰、そして音楽の記憶を迎え、青年は歴史の迷宮に足を踏み入れる。『紙魚の手帖』掲載を書籍化。

小学生高学年向け

マナティーがいた夏

エヴァン・グリフィス / 作
多賀谷 正子 / 訳
ほるぷ出版



11歳の夏休み、ピーターはすべてうまくやれるはずだった。「生き物発見ノート」を完成させ、認知症のおじいちゃんの世話をし、けがをしたマナティーを守る。ところが…。変化に向き合う勇気をくれる、ひと夏の成長物語。

一般向け

ごみと暮らしの社会学

モノとごみの境界を歩く

梅川 由紀 / 著
青弓社



人々の日常生活に密着した「生活文化としてのごみ」に着目。ごみとモノの境界がどこにあるのか、時代によってその境界がどう揺れ動いてきたのかなどを、多くの雑誌や資料の分析、ごみ屋敷でのフィールドワークから明らかにする。

夏季期間は木曜日も開館します

8月のカレンダー

小中学校の夏休み期間(8月28日まで)は、第4金曜日を除き毎日開館しています。1階の郷土資料室も学習室として開放していますので、ぜひ夏休みの調べものや学習にご利用ください。

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3 17時開館	4	5	6	7	8	9
10 17時開館	11 山の日 17時開館	12	13	14	15	16
17 17時開館	18	19	20	21	22 休	23
24 17時開館	25	26	27	28	29	30
31 17時開館						

おはなし会のご案内

えほんのじかん 〈約30分程度〉

対象: 幼児・小学生
日時: 水曜日16:00～／土曜日14:00～

らっこのじかん 〈約20分程度〉

対象: 0・1・2歳児
日時: 第4火曜日 10:30～

場所: 宇土市立図書館1F児童室
内容: 絵本や紙芝居の読み聞かせ、
パネルシアター、手遊びなど

※予約・参加費は要りません。
※都合により変更や中止になる場合があります。



境目遺跡で出土した甕棺
(市立図書館1階の郷土資料室で展示中)

巨大な土器「甕棺」
甕を埋葬に使う習俗は縄文時代からみられます。当時の甕は小型のものが多く、基本的に子どもの埋葬用

1953(昭和28)年、境目町と善道寺町の境界付近の道路工事で、大型の甕形土器が出土しました。通常の煮炊きや貯蔵に用いられた土器と比較しても非常に大型で、遺体を埋葬するための専用の土器です。このような土器を「甕棺」と呼びます。

だったと考えられています。成人の埋葬用として大型の甕棺を製作するようになったのは、弥生時代前期の終わりごろ(約2500年前ごろ)です。その後、弥生時代中期(約2100年前ごろ)に全盛を迎えますが、弥生時代後期(約1900年前ごろ)には衰退します。

甕棺が出土する地域は、主に福岡県西部や佐賀県の九州北西部に集中しています。有名な出土地としては、漢(現在の中国)から金印を授けられた「奴国」の推定地とされる須玖・岡本遺跡(福岡県春日市)や、巨大なクニがあったと考えられる吉野ヶ里遺跡(佐賀県吉野ヶ里町)などがあります。

宇土で見つかった甕棺

宇土では宇土城跡・城山遺跡(古城町)、境目遺跡(境目町)、畑中遺跡(松山町)、北園遺跡(松山町)、古保里遺跡(古保里町)、北平遺跡(宮庄町)の6つの遺跡で甕棺が発見されており、宇土半島の付け根にあたる宇土市東

部に集中しています。

宇土で出土した甕棺は「須玖式」と「黒髪式」の2種類があります。須玖式はその名の通り、須玖・岡本遺跡で出土した甕棺と同系統のもので、赤褐色で大きく、福岡県や佐賀県を中心に出土しています。宇土で発見された甕棺も多くがこの須玖式です。対して、黒髪式は黒褐色で、須玖式の甕棺よりも小型です。出土地は熊本県が中心で、須玖式よりもやや特殊な甕棺です。宇土では北平遺跡で出土しています。

宇土は甕棺出土の最南端

熊本県内では、多くの甕棺が見つかっていますが、全てが宇土より北の地域で出土しています。宇土よりも南の八代平野などでは、現在のところ甕棺は見つかっていません。薩



甕棺の出土分布図(黒い点が甕棺出土地)
(藤尾慎一郎 1989「九州の甕棺」
『国立歴史民俗博物館研究報告』21 集より)

九州北西部とつながり
分布図を見ると、甕棺の出土地は九州北西部に集中しており、これがそのまま甕棺を使用する文化圏といえるようになります。

宇土半島の付け根は甕棺がまとまって発見される最南端の地域であり、当時の宇土は九州北西部を中心とする甕棺文化圏の縁辺部であったことが分かります。

多くの甕棺が出土する九州北西部には、有名な「魏志倭人伝」に登場するクニの推定地が複数ありますが、同じ甕棺文化圏である宇土にも、これらのクニと交流があったクニの存在が想定されます。

このように、宇土は甕棺のまとまった出土が確認される最南端の地であると言えます。

第130回

温故知新 くもと学だより

図文化課文化係 ☎(23)0156

甕棺文化の最南端 宇土